

一般社団法人 日本呼吸療法医学会
定時社員総会 議事録

2025 年 6 月 14 日(土)17 時から 19 時に、オンライン上で定時社員総会を開催した。

【開会】 挨拶 : 竹内 宗之 理事長
開催時期変更の説明: 佐藤 暢一 事務局担当理事

- ・代議員 136 名中、出席者 79 名と委任状提出者 24 名の合計 103 が、本総会の成立に必要な総代議員数の過半数であることが報告され、開会が宣言された。
- ・竹内理事長より挨拶があった。佐藤事務局担当理事より、定時社員総会の開催時期を変更したことについて説明があった。従来は学術集会前日に開催してきたが、法人法に則り、法人の確定申告が事業年度末から最長 3 カ月以内と定められており、6 月中に開催することになった。

I. 報告事項

1. 総会および理事会議事録の確認・承認（竹内理事長）

- ・前年度の定時社員総会議事録と理事会議事録が報告され、承認された。

2. 理事長報告（竹内理事長）

1) 名誉会員ご逝去の件

- ・名誉会員の多治見公高先生が 5 月 22 日(木)、肺炎のためご逝去されたとの一報を受け、理事会・委員会規則第 21 条に則り供花代を拠出し学会からの弔意をお伝えした。川前金幸名誉会員には 5 月 27 日のお別れ会にご参列いただいた。
- ・一般的に、現役教授はもちろん、名誉会員になられた方はそれなりの葬儀が行われることが多いが、退官後かなりの年数が経ち、ご遺志で家族葬を選ばれる場合も想定される。学会からの見舞金について、さまざまなケースに対応すべく詳細の内規を作成することとした。

2) ホームページリニューアル／タグライン・ボディコピー／ロゴの件

- ・2024 年度から広報委員会を設置し、会員増に向けた施策として、ホームページ・学会ロゴのリニューアル、学会の理念・コンセプト・メッセージを表すタグライン・ボディコピーの制作に取り組んだ。ホームページやロゴは学会の顔でありそのデザインは信頼性や安心感を高め、タグライン・ボディコピーは入会の動機に直結する。ロゴとタグライン・ボディコピーは完成し、ホームページは制作中である。
- ・タグライン・ボディコピー作成において会員を対象に行ったアンケート結果は資料の第 3 回理事会議事録に要約を記した。

3) 呼吸療法専門医の認定方針

- ・呼吸療法専門医の位置づけや合格水準について、理事会＝学会の方針・基準を整理して委員会に提示する必要があるとの議論になった。

- ・本会の専門医制度は 2010 年に発足し、認知度を高めるために意図的にその数を増やし、同時に専門医を養成するための研修施設を全国に整備している段階にある。特別なインセンティブや取得義務のない任意の制度で、診療報酬の加算算定要件などとの関連もなく、直接的なメリットが明らかでない中、本制度の趣旨に賛同する医師会員が自ら審査料・登録料まで納めて専門医を取得し、当該領域の発展に貢献している。その結果、志の高い医師が受験する筆記試験の合格率は高くなるのも自然の成り行きであり、試験問題の適切性や難易度は引き続き吟味したうえで、引き続き門戸を広く開ける方針をとることとする。

4) 多職種を対象とした活動

- ・2025 年 7 月から 1 カ月間オンラインで開催する多職種向け第 54 回日本呼吸療法医学会セミナーの受講者数が 1,145 名となった。3 学会合同呼吸療法認定士更新・受験申請点数取得可能ということもあり、毎年多くの多職種の方が受講している。
- ・かねてより本会ではセミナーを中心に多職種会員が活発な活動を行ってきた。近年多職種の会員数の推移は微減傾向にあるが、多職種会員向けの施策も積極的に行っていきたいと考えている。

5) 会員管理システム

- ・学会活動を行うにおいて会員の利便性を向上させ大きな会員メリットをもたらす会員システムを導入する件については、ホームページリニューアル完了後に続けて進めていき、2025 年度中には導入できるよう計画中である。

3. 事務局からの報告（佐藤理事）

- ・2025 年 5 月時点の会員数が以下のとおり報告された。
一般会員：1,787 名（Dr 1,120、Ns 239、CE 298、PT 107、他 23）
賛助会員：13 社／年間購読契約：7 件
- ・会員動向は、2024 年度末で資格喪失退会者が 88 名となり、全職種で減少となった。
医師・看護師・臨床工学技士はいずれも 20 名ほど減少している。
- ・一般会員の会費納入状況は、2023 年度が 94.6%、2024 年度が 82.3%である。2025 年度の年会費請求は 4 月末に発送した。

4. 学術集会準備状況

1) 第 47 回学術集会（会長：吉田理事 代：竹内理事長）

2025 年 8 月 30 日(土)・31 日(日)グランキューブ大阪（大阪）

「挑戦、そしてその先へ—Beyond the CHALLENGE—」

オンデマンド配信(予定)：2025 年 9 月 18 日(木)12:00～10 月 21 日(火)24:00

- ・学術集会収支予算について、1,300 名の参加者予定で 8,579,500 円の黒字予算となったことが報告された。
- ・今後、プログラムを確定し、特別プログラム登壇者・一般演題座長への日時通知、一般演題応募者採否・日時通知、暫定プログラム公開を進める。6 月 17 日(火)に参

加申込・ハンズオンセミナー申込を開始予定である。

- ・会期後には上記のとおり約1カ月間オンデマンド配信を予定している。

2) 第48回学術集会（会長：平井理事 代：竹内理事長）

2026年7月4日(土)・5日(日)国立京都国際会館（京都）

- ・上記の概要が報告された。

3) 第49回学術集会（会長：竹内理事長）

2027年7月3日(土)・4日(日)ウインクあいち（愛知）

- ・上記の概要が報告された。

5. 役員・社員・委員会人事（佐藤理事）

- ・各委員会人事について、委員会名簿のとおり報告された。
- ・前会長として職責指定理事をお務めいただいた中根正樹先生は本総会をもって任期満了となる。2024年6月に山形・天童で開催された第46回学術集会でのご尽力に対し改めて感謝申し上げます。

6. 定款施行細則／理事会・委員会規則／専門医制度規則 変更報告（佐藤理事）

- ・以下の変更が報告された。

《定款施行細則》

- ・第17条 選挙年の総会後に開催する新理事長選出にかかる規定の表現を変更
- ・第20条 新理事長を社員総会に報告・承認する規定を削除（以下、繰り上げ）

《理事会・委員会規則》

- ・第11条(1)(3) 委員、委員長の任期にかかる表現を変更
- ・第11条(4) Ad hoc 委員会に関する規定を明記

《各委員会規則》

- ・将来計画・財務委員会規則 委員会を組織する役職について修正
- ・社会保険委員会規則 任期、協力員規定などの修正
- ・広報委員会規則 委員会設置にともない規則を新設

《専門医制度施行細則》

- ・第15条(3) 機関誌名「呼吸療法」に修正、更新点数の変更

7. 2025年度の予定（佐藤理事）

- ・第1回理事会（Web会議形式） 9月12日(金) 18:00～19:30
- ・第2回理事会（Web会議形式） 11月28日(金) 18:00～19:30
- ・第3回理事会（Web会議形式） 2月27日(金) 18:00～19:30
- ・第4回理事会（Web会議形式） 5月29日(金) 18:00～19:30
- ・定時社員総会（Web会議形式） 6月13日(土) 午後
- ・上記の予定が報告された。

Ⅱ．審議事項

第 1 号議案 2024 年度事業報告および決算承認の件（佐藤理事）

<収 入>

- ・年会費：前年度より 27.9 万円の減となった。年度内の納入率は約 80.8%、未収金は 251.6 万円。
- ・事業費：年 3 回のオンラインセミナー収入は前年度より 81.1 万円の減となった。
- ・広告費：ユーザーレポート掲載社は年間で計 3 社となった。
- ・機関誌販売：別刷販売が 2 編あり前年度より 47.2 万円の増となった。
- ・当期収入は 98,569,093 円、学術集会関連を除くと 30,777,819 円となった。

<支 出>

- ・機関誌等発行費：機関誌の頁数は前年より 43 頁増となった。
- ・事業費：セミナーの経費は前年度より 32.8 万円の減となった。
- ・委員会費：『呼吸療法』デザイン費 342,300 円、ARDS 2026 の 3 学会経費 864,973 円を計上した。
- ・当期支出合計は 83,264,755 円、学術集会関連を除くと 21,014,745 円となった。
- ・次年度繰越利益は 146,291,915 円となった。

<収支合計>

- ・学術集会を除く単年度収支は 9,763,074 円の黒字となった。

<監査報告>

- ・竹田監事・藤野監事による会計監査が適切に行われたことが報告された。
- ・以上、2024 年度決算について審議を行った。

●賛成が 96（賛成 72、委任状 24）で、出席した代議員の議決権 103（出席 79、委任状 24）の過半数となり、本議案は可決された。

第 2 号議案 2025 年度事業計画および収支予算の件（佐藤理事）

<収 入>

- ・会費収入：2025 年 5 月時点の会員数にもとづき計上した。
- ・事業収入：医学会セミナーを年 1 回（800 名）、医師向けセミナーを年 2 回（410 名）として、参加費収入を計上した。
- ・広告収入：1 号のユーザーレポート掲載料は実費を、2 号は見込額を計上した。
- ・書 籍 等：『ECMO・PCPS バイブル』『小児在宅第 2 版』の印税見込額を計上した。
- ・学術集会：会長試算による見込み額を計上した。
- ・以上、当期収入予算は 118,822,100 円、学術集会関連を除くと 28,987,100 円となった。

<支 出>

- ・機 関 誌：各号の発行諸経費にもとづき計上した。
- ・事 業 費：医学会セミナーを年 1 回、医師向けセミナーを年 2 回として、前年実績にもとづき計上した。

- ・ 委員会費：各委員会の前年実績などにもとづき計上した。学術推進年間予算として 100 万円、ホームページ制作費として 330 万円、ARDS ガイドライン制作費として 387 万円を計上した。
- ・ 学術集会：会長試算による見込み額を計上した。
- ・ 専門医等：『呼吸療法専門医テキスト』編集費と試験会場費を計上した。
- ・ 理事会費：会員管理システム制作費として 300 万円を計上した。
- ・ 社員総会費：本年度からオンライン総会に移行する。
- ・ そ の 他：交際費・事務局費・通信費・租税公課・支払手数料・事務用消耗品費・法人税等を前年度にもとづき計上した。
- ・ 以上、当期支出予算は 111,681,400 円、学術集会を除くと 30,425,900 円となった。

<収支合計>

- ・ 単年度の収支は約 714 万円の黒字予算となることが報告された。
- ・ 以上、2025 年度予算について審議を行った。

- 賛成が 96（賛成 72、委任状 24）で、出席した代議員の議決権 103（出席 79、委任状 24）の過半数となり、本議案は可決された。

第 3 号議案 定款変更の件（竹内理事長、佐藤理事）

- ・ 第 17 条 代議員の辞任にかかる規則を追加（以下、条文番号繰り下げ）
- ・ 第 38 条 理事会の招集規則を変更
- ・ 第 44 条 常設委員会に加えて Ad hoc 委員会を明記
- ・ 以上、定款変更について審議を行った。

- 定款の変更は総代議員の議決権の 3 分の 2 以上の賛成を要する。
賛成が 97（賛成 73、委任状 24）で、総代議員数 136 名の 3 分の 2（89）以上となり、本議案は可決された。

第 4 号議案 第 50 回（2028 年）学術集会会長候補の件（竹内理事長）

- ・ 定款施行細則第 4 章にある学術集会会長選出の条文に則り、活動実績や貢献度などから第 50 回学術集会会長に内田寛治理事が推薦された。
- ・ 以上、第 50 回（2028 年）学術集会会長について審議を行った。

- 賛成が 97（賛成 73、委任状 24）で、出席した代議員の議決権 103（出席 79、委任状 24）の過半数となり、本議案は可決された。

Ⅲ. 委員会報告

1. 将来計画・財務委員会 (委員長 竹内宗之)

1) 委員会開催

日 時：2024 年 6 月 27 日(木)13:00～14:00 会 場：緑の迎賓館 アンジェリーナ

出席者：藤野裕士 (委員長)、大塚将秀、佐藤暢一、布宮 伸 (各委員)

欠席者：志馬伸朗 (委員)

2) 活動実績

- ・若手登用を推進し、2024 年度代議員に新規 38 名が就任
- ・広報委員会の設置、ホームページのリニューアルに着手

3) 今後の活動

- ・学術集会あり方検討委員会業務の担当
- ・会員管理システムの制作 (ホームページ制作会社との協業も視野に)

2. 編集委員会 (委員長 藤本潤一／担当理事 竹内宗之)

1) 委員会開催

《第 1 回》

日 時：2024 年 9 月 24 日(火)18:00～19:50 形 式：Web 会議形式

出席者：藤本潤一 (委員長)、片岡 惇、飯田有輝、馬屋原康高、緒方嘉隆、
柏 庸三、田村富美子、近田優介、則末泰博 (委員)、竹内宗之 (理事)

欠席者：吉田健史 (委員)

《第 2 回》

日 時：2025 年 3 月 4 日(火)13:00～15:00 形 式：Web 会議形式

出席者：藤本潤一 (委員長)、片岡 惇、吉田健史、馬屋原康高、緒方嘉隆、
田村富美子、近田優介、則末泰博 (委員)、竹内宗之 (理事)

欠席者：飯田有輝、柏 庸三 (委員)

2) 機関誌

《第 41 巻第 2 号：2024 年 11 月 30 日発行》

特集「気管切開」(担当：藤本委員長)

総説 急性低酸素性呼吸不全に対する非侵襲的呼吸補助 櫻谷 正明

解説 非侵襲的呼吸補助療法におけるネブライザー 奥田みゆき

講座 間接性肺炎の急性増悪の診断と治療 片岡 健介

《第 42 巻第 1 号：2025 年 5 月 30 日発行》

第 46 回学術集会『標す』特別企画 中根 正樹

特集 「患者と人工呼吸器間の非同調」(担当：則末委員)

総説 Closed loop control 荒田 晋二

解説 呼吸サルコペニア 宮崎慎二郎

慢性呼吸不全の在宅療養：臨床工学技士の立場から 阿部 博樹

《第 42 巻第 2 号：2025 年 11 月 30 日発行》

特集 「小児の呼吸管理のエッセンス」(担当：飯田委員)

総説 航空搬送

山口 大介

解説 薬剤性肺障害 (ICI など新規薬剤を中心に)

馬場 智尚

講座 カプノグラム

岩元 悠輔

3) 投稿論文

- ・直近 6 年間の新規投稿数 (採択数※) の推移

'20 年	'21 年	'22 年	'23 年	'24 年	'25 年
23 (12)	21 (9)	16 (7)	20 (12)	19 (6)	8 (0)

※採択日が翌年にずれ込んだ件数も含む

- ・第 46 回学術集会座長推薦：56 演題 (優秀演題含む) 3 編投稿

4) ユーザーレポート

38-1	38-2	39-1	39-2	40-1	40-2	41-1	42-1
3 社	5 社	2 社	2 社	2 社	2 社	2 社	1 社

※電子ジャーナルへの移行にともない広告掲載を終了

5) 2025 年度論文賞

- ・優秀論文賞

原著 食道内圧バルーン空気量の簡便な較正法 (呼吸同調持続注入法：CAISR 法) の開発

宇佐見 直・他 (東京ベイ浦安市川医療センター 臨床工学室)

臨床工学技士 41-2 号

- ・奨励論文賞

呼吸管理の工夫 単回使用吸入麻酔薬気化器を使用した術後短期人工呼吸管理に関する費用分析

下村 太郎・他 (大阪赤十字病院 医療技術部 臨床工学技術課)

臨床工学技士 41-1 号

呼吸管理の工夫 令和 6 年能登半島地震における在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法・在宅持続陽圧呼吸療法を扱う事業者の災害対応

濱坂 秀一 (医王病院 呼吸器障害・感染症治療研究室)

臨床工学技士 41-2 号

6) 用語集改訂第 3 版

- ・制作業務を用語集改訂委員会 (Ad hoc) に委託した。

3. 代議員審査委員会（委員長 青景聡之／担当理事 平井豊博 代：竹内理事長）

1) 代議員審査 2026 に向けて

- ・ 審査の実施に向けて、規定の確認、運用の見直し、申請方法の確認などを行い 2026 年 1～3 月の申請に備えることとする。

=====

【参考 1】一般社団法人日本呼吸療法医学会 定款施行細則 第 4 条・第 5 条・第 6 条 ＜新規＞

第 4 条 新代議員の選出は、第 2 条による新代議員候補者の中から次の各項により行う。

- (1) 新代議員は、定款第 43 条により設置される代議員審査委員会が選出し、理事会の承認を経て、理事長が委嘱する。
- (2) 原則として、次の基準を同時に満たすことを新代議員の資格条件とする。ただし、理事会が必要と認めた者はその限りではない。
 - ① 審査委員会開催の時点で、**合計 3 年間（3 年度）以上本会会員**であること。
 - ② 医師については「**呼吸療法専門医**」資格を有していること。
 - ③ 本会の学術集会において**2 題以上の発表**（共同演者も含む）があること。そのうち 1 編は、筆頭演者での発表であること。
 - ④ 呼吸に関する**論文 3 編以上**（共同執筆も含む）が内外の雑誌に掲載されていること。
ただし、雑誌「人工呼吸」のプログラミング以外の抄録発表は論文とは認めない。
- (3) 同一施設の代議員は 3 名以内とする。ただし、同一病院でも所属が異なれば同一施設でないとみなす。

＜更新＞

第 5 条 代議員は以下の業務を行う。

- (1) 定時社員**総会に出席**し、会員を代表して議決権を行使する。
- (2) 各委員会から推薦を受けた場合、委員として**委員会活動**に参画する。
- (3) **学術集会に出席**し、依頼のもとに座長としてセッションの司会を行い、機関誌への投稿推薦を提出する。
- (4) 依頼のもとに投稿論文の**査読**を行う。

第 6 条 理事長は、代議員審査委員会に諮って再任を希望する代議員の資格審査を行う。次の各項のいずれかに該当する代議員は再任されない。

- (1) 特別な理由がないにもかかわらず、委任状の提出なく直前 3 年間の定時社員総会に出席がないとき。
- (2) 理事会で再任が不適当と認められたとき。

【参考 2】一般社団法人日本呼吸療法医学会 理事会・各種委員会内規 第 18 条 ＜新規＞

第 18 条 新代議員の選出に際して、定款施行細則第 4 条の（2）に記載された資格条件を満たしていない場合でも、既に本会への多大な貢献が認められ、今後も本会の発展に寄与すると判断できる者は、理事会が代議員への就任を承認できるものとする。

4. 小児在宅人工呼吸検討委員会（委員長 寺澤大祐／担当理事 竹内宗之）

1) 第3版の制作に向けて

- ・在宅人工呼吸器の普及が急速に拡大し、小児在宅は重要領域となっている。第3版の制作に向け、現委員がコアとなって制作陣を組織できる準備を進める。

2) 委員会体制の変更

- ・本委員会は『小児在宅人工呼吸療法マニュアル』の制作・改訂が主たる活動となっており、制作メンバーの活動を改訂時期に集約させるため、常設委員会から Ad hoc 委員会へと移行する。

5. セミナー委員会（委員長 方山真朱／担当理事 大塚将秀・玉木 彰）

1) 委員会開催

《第1回》

日 時：2024年8月5日(月)18:00～18:40 形 式：Web 会議

出席者：方山委員長、秋保委員、板垣委員、大村委員、小野寺委員、小泉委員、
小山委員、藤江委員、山口委員、大塚理事、玉木理事

オブザーバー：鶴澤委員、鎌田委員、小笠原（事務局）

《第2回》

日 時：2025年4月22日(火)10:00～11:00 形 式：Web 会議

出席者：方山委員長、板垣委員、大村委員、小野寺委員、小泉委員、小山委員、
柳田委員、大塚理事、玉木理事

オブザーバー：後藤次期委員、小笠原（事務局）

欠席者：櫻谷委員、藤江委員、山口委員

2) 活動報告（2024年度）

- ・第53回医学会セミナー：7/1～7/31（メディカルスタッフ向け9講義）

プランナー：方山真朱 委員長 受講料：7,700 円（税込、テキスト代含む）

点 数：3 学会合同呼吸療法認定士の更新・受験申請点数（25 点）付与

- ・医師向けセミナー第3回 Refresher コース：11/1～11/30（医師中級者向け7講義）

プランナー 小泉 沢 委員 受講料：12,100 円（税込、テキスト代含む）

教 材：『呼吸療法専門医テキスト』（専門医制度との連動）

- ・医師向けセミナー第14回 Basic コース：3/1～3/31（医師初級者向け7講義）

受講料：12,100 円（税込、テキスト代含む）

《2024年度セミナー収支》（税別）

	受講料収入	講演料	委託料/テキスト	事務局費	収 支
第53回セミナー(799名)	5,593,000	546,729	1,700,628	150,000	+3,195,643
第3回 Refresher(107名)	1,177,000	425,233	616,734	100,000	+35,033
第14回 Basic(293名)	3,223,000	425,233	832,373 宣伝)150,400	100,000	+1,714,994

- ・鹿児島でハンズオンセミナー「人工呼吸器」を以下のとおり開催した。

日 時：2025 年 1 月 11 日(土)9:00～12:00

会 場：鹿児島大学病院 臨床研修センター

講 師：新旧セミナー委員 8 名（4 ブース設置）

内 容：① 人工呼吸器のグラフィック（大村、櫻谷）

② 肺保護換気とは？（小野寺、鎌田）

③ この自発呼吸は大丈夫？（板垣、小山）

④ 最適な PEEP 設定（方山、藤江）

受講生：1 ブースあたり最大 8 人。総数最大 32 名。多職種の参加。

謝 礼：50,000 円/1 名、旅費交通費 約 50,000 円/1 名（主催団体負担）

3) 活動計画（2025 年度）

- ・第 54 回医学会セミナー：7/1～7/31（メディカルスタッフ向け 9 講義）

プランナー：大村和也 委員 受講料：7,700 円（税込、テキスト代含む）

点 数：3 学会合同呼吸療法認定士の更新・受験申請点数（25 点）付与

受講者：1,145 名

- ・医師向けセミナー第 4 回 Refresher コース：11/1～11/30（医師中級者向け 6 講義）

プランナー 小山有紀子 委員 受講料：12,100 円（税込、テキスト代含む）

教 材：『呼吸療法専門医テキスト』（専門医制度との連動）

- ・医師向けセミナー第 15 回 Basic コース：3/1～3/31（医師初級者向け 7 講義）

受講料：12,100 円（税込、テキスト代含む）

4) ハンズオンセミナーの地方開催補助について

- ・セミナー事業で生じる黒字分の活用案として、地方でハンズオンセミナーを開催する際の補助金とする委員会提案が理事会で承認された。
- ・財源はオンラインセミナーの受講料である一方、受益者はハンズオンセミナーの受講者になり、両者が異なるという点と受益者が非常に少数（多くて 30 名前後）という点が懸念され、公平性の担保が課題の 1 つといえる。
- ・本会全体の事業という大きな括りで考えると、学会の積極的な社会参画による社会的地位向上といったメリットがあり、2026 年度から年間予算 100 万円程度を計上し計画を進める。
- ・また、鹿児島でのハンズオンセミナーのように、依頼を受けて実施するケースについても基本的にはお受けする方向で検討を行うが、学会への依頼をしていただくこと、適正な講演料・資料作成料を頂戴すること、器材・消耗品を手配いただくこと、できるだけ近隣の講師で対応できる配慮をいただくことなどを条件に承認された。

5) 委員長交代

- ・方山真朱委員長の任期満了にともない小泉 沢委員が委員長に就任する。

6. チーム医療推進委員会（委員長 佐藤暢夫／担当理事 大塚将秀）

1) 委員会開催（定例 Web 会議、毎月第 3 金曜日 18 時）

委員：佐藤暢夫、有澤文孝、五十嵐義浩、玉城 智、戸部一隆、中澤英俊、
野々山忠芳、花岡正志、藤澤美智子、三山麻弓、山下崇史、大塚将秀（理事）
開催：2024年7月、9月、11月、12月、2025年1月、2月、3月、4月、5月の計
9回の定例委員会を開催

2) Joyful Board（会員限定意見交換掲示板）

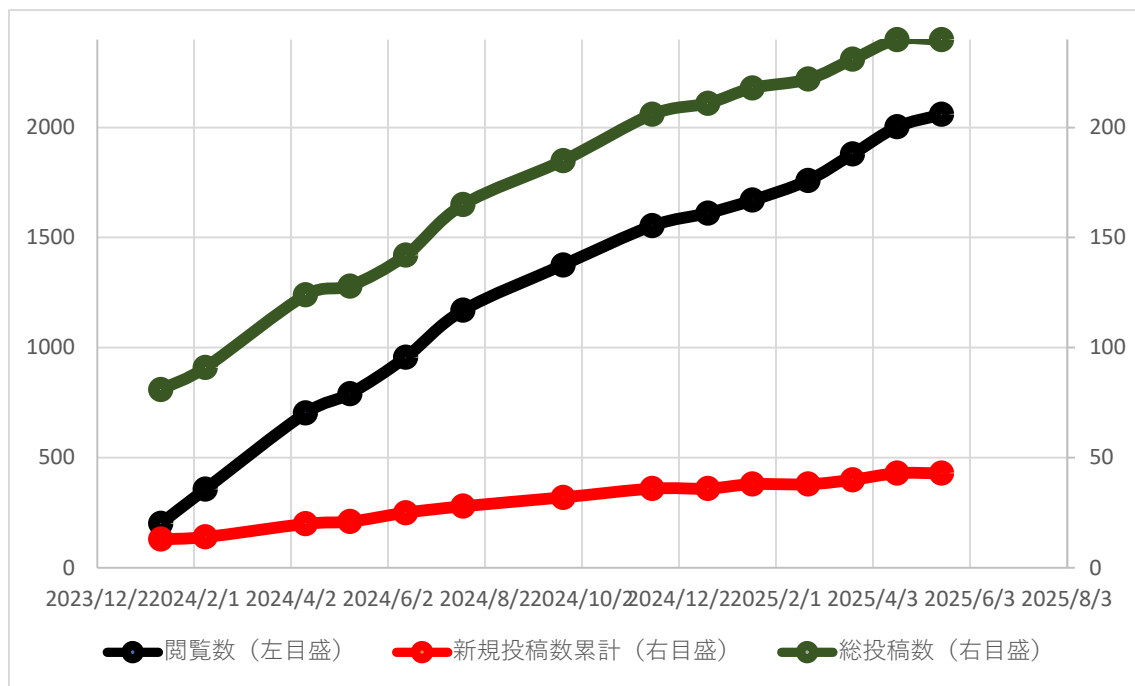
- ・アクセスカウンター設置 「2,200」
- ・投稿数・回答数の推移を以下グラフに示した。

3) 実態調査アンケートの投稿執筆中

「呼吸管理及び自発呼吸トライアルにおけるメディカルスタッフの関わりについて」

4) 第47回学術集会（2025年8月30日～31日、大阪）での委員会企画

- ① Joyful Board 活用してますか？（委員会報告）30分
- ② 呼吸療法におけるタスク・シフト/シェア（パネルディスカッション）90分
- ③ 呼吸療法における多職種連携の現状と課題（パネルディスカッション）90分
- ④ 呼吸療法のいろは（教育講演として採用）30分



6-2. RSTプロジェクト（委員長 長谷川隆一／担当理事 佐藤暢一）

1) 会議

日時：2025年3月31日(月)17:30～18:30 形式：Web会議方式

出席：長谷川隆一、三山麻弓（呼吸療法）、西村直樹、南雲秀子、宮川哲夫（ケアリハ）

欠席：金子教宏、濱本実也、蝶名林直彦

2) RSTプロジェクトの終了

- ・RSTプロジェクトは日本呼吸療法医学会と日本呼吸ケアリハビリテーション学会の2学会合同で2012年に始動した。本プロジェクトの目的は、会員およびその所属施設におけるRSTの普及と啓発・支援を行い、さらには各施設のRSTの活動成果を

データベースに蓄積し、学会としてその有用性・価値を社会に示すことにあった。各施設からの申請を受けて施設認定・登録を行い、定期的な活動データの吸い上げ・検証を行ってきた。

- ・当初、本プロジェクトにより RST が増加し、その恩恵を受ける患者も増え、真摯に取り組む RST には診療報酬の加点が得られる、といったプラスの効果を期待したが実際には認定・登録施設は 43 施設にとどまり、活動データの入力作業が現場の負担となっている声もあり、プロジェクトの方針を大幅に見直す必要があった。
- ・一方、RST の認知度は徐々に高まり、多くの施設で RST の取り組みが軌道に乗り、近年では学会発表や文献から呼吸ケアの質の向上や安全の担保に RST が貢献していることが明らかとなった。本プロジェクトの当初の目的であった普及と啓発については一定の成果があったものと考え、2024 年度をもって活動を一旦終了する。
- ・ただし、引き続き RST への支援は必要であり、今後は各学会単位で RST の活動を支える体制を整えることとした。これまで本プロジェクトにご協力いただいた登録施設の皆様、注目して応援くださった会員の皆様に深く御礼申し上げます。

7. 安全対策・危機管理委員会（委員長 大塚将秀／担当理事 内田寛治・石井宣大）

1) 人工呼吸器の作動停止事例情報収集

《2024 年 4 月～2025 年 3 月》

- ・情報提供数 10 件：換気が停止したもの 6 件、換気が継続していたもの 4 件
- ・換気が停止した 6 件について
実害なし：6 件、一時的低酸素血症：0 件、後遺症あり：0 件、死亡：0 件
覚知方法 アラームによるもの：4 件、換気停止を目撃したもの：2 件

《総括》

- ・2013 年から本委員会で行ってきた人工呼吸器停止事例収集に対して、総計 145 件の情報提供があった。重複登録や換気が継続していたと判断できた事例を除いた 127 件に関して集計し分析を行った。
- ・死亡事例が 3 件あったが、いずれも原疾患が重篤または終末期で、積極的な治療を希望しない症例だった。それ以外は、後遺症を残した事例はなく、一時的な低酸素血症を呈したものが 18 件、無症状が 106 件だった。
- ・原因は多岐にわたったが、特定の機種に片寄って発生する傾向は見られなかった。
- ・本事例収集は、任意の報告なので報告バイアスが大きく、PMDA および日本臨床工学技士会でも同様の事例収集事業があるため報告者の負担が大きいことが懸念され、2025 年 3 月末で終了することが前回の理事会で承認された。
- ・収集したデータおよびその分析結果は、第 47 回学術集会（2025 年）及び学会誌（2025 年 2 号）で報告を行う予定である。

2) 医療安全全国共同行動 2025 年度継続

- ・医療安全全国共同行動 2025 年度定時社員総会への出席・活動報告を予定。

3) 医療事故外部調査委員の選出

- ・国内医療施設からの外部有識者推薦依頼があった場合、安全対策・危機管理委員を中心に標記調査委員を選出し、依頼に備えることとした。
- ・将来的には代議員に対象を広げて調査委員を募り、派遣依頼があった場合は、理事長、事務局担当理事、安全対策・危機管理委員会委員長で協議して対応者を決めることなどを検討している。

4) 『人工呼吸器安全使用のための指針（第2版 2011年）』改訂

- ・日本臨床工学技士会（窓口：木村政義様）と日本クリティカルケア看護学会（窓口：濱本実也様）との3学会協業体制で改訂が進められた。
- ・完成間近であり、今後はパブリックコメント募集、理事会承認を経て2025年夏頃には公表の予定である。

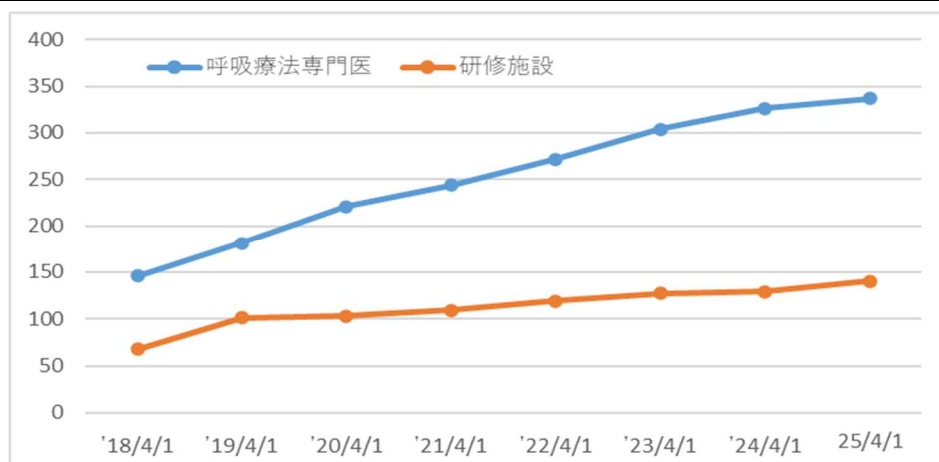
8. 専門医委員会（委員長 江木盛時／担当理事 佐藤暢一）

1) 2024年度〈更新・新規〉審査結果

	研 修 施 設 (129) 〈更新〉 〈新規〉		専 門 医 (325) 〈更新〉 〈新規〉	
申請期間	4/1～ 5/31		8/1～ 9/30	
対象/申請	8 施設	11 施設	91 名	36 名
認 定 数	8 施設	11 施設	68 名	36 名
			筆記試験合格	36 名
退 会 等			退会 2 名	暫定 1 名
認定総数	140 施設		337 名	
有効期間	2025/4/1～ 2030/3/31			

2) 呼吸療法専門医／研修施設 推移

	'18/4/1	'19/4/1	'20/4/1	'21/4/1	'22/4/1	'23/4/1	'24/4/1	'25/4/1
呼吸療法専門医	146	181	221	244	272	304	326	337
研修施設	68	101	103	109	119	127	129	140



3) 委員会開催

《第1回》

日 時：2024 年 6 月 13 日(木)14:00～15:00 形 式：Web 会議形式
出席者：江木盛時（委員長）、大藤 純、倉橋清泰、鈴木 学、平井豊博、
藤本潤一、山下幸一、吉田健史（各委員）、佐藤暢一、藤野裕士（担当理事）
欠席者：阿部信二、岡森 慧、富井啓介（委員）
議 事：研修施設書類審査、テキスト改訂確認

《第 2 回》

日 時：2024 年 10 月 9 日(水)18:00～19:00 形 式：Web 会議形式
出席者：江木盛時（委員長）、岡森 慧、鈴木 学、富井啓介、平井豊博、藤本潤一、
松本正太郎、山下幸一（各委員）、佐藤暢一（担当理事）
欠席者：阿部信二、大藤 純、倉橋清泰、吉田健史（委員）
議 事：呼吸療法専門医書類審査、試験確認

《第 3 回》

日 時：2024 年 12 月 9 日(月)16:00～17:00 形 式：Web 会議形式
出席者：江木盛時（委員長）、阿部信二、岡森 慧、倉橋清泰、富井啓介、
平井豊博、藤本潤一、松本正太郎、吉田健史（各委員）
欠席者：大藤 純、鈴木 学、山下幸一（委員）、佐藤暢一（担当理事）
議 事：試験合否判定、次年度テキスト改訂・問題作成計画

4) 呼吸療法専門医の認定更新にかかる更新点数の見直し

- ・呼吸療法専門医の更新については、かつては 5 年間で本会年次学術集会に 2 回以上の出席という比較的達成が容易な水準であったが、『呼吸療法専門医テキスト』や筆記試験の充実化と並行して更新要件も再考すべきという意見があり、実際に「更新点数 4 点以上の取得」という要件が追加された経緯がある。
- ・それをふまえ、本制度の目的や学会全体の方向性などを総合的に考慮し、専門医制度施行細則 第 15 条 (3) を見直した。

5) 2025 年度の活動計画

《第 1 回専門医委員会》 6 月：研修施設書類審査、テキスト改訂確認
《呼吸療法専門医更新講習》 8 月：第 46 回学術集会（大阪）2 セッション（予定）
《第 2 回専門医委員会》 10 月：呼吸療法専門医書類審査、試験確認
《呼吸療法専門医筆記試験》 12 月上旬(土)11:30～13:00 新大阪 （日程調整中）
《第 3 回専門医委員会》 12 月：試験合否判定、次年度テキスト改訂・問題作成計画

6) 委員長交代

- ・江木盛時委員長の任期満了にともない大藤 純委員が委員長に就任する。

9. ECMO プロジェクト委員会 （委員長 清水敬樹／担当理事 小倉崇以）

1) 委員会開催

- ・全国のポストコロナにおける発生状況、ECMO 稼働の現状を適宜 Web 会議で共有した。今後は、積極的に委員会を開催する予定。
- ・日本呼吸療法医学会での委員会企画に関する相談

2) ECMO プロジェクト

- ・日本救急医学会の ECMO プロジェクト、日本集中治療医学会の ECMO プロジェクトとの合同委員会企画等を各種学術集会で適宜開催。

3) 他学会との連携

- ①日本集中治療医学会 ECMO プロジェクト委員会、日本救急医学会 ECMO ネットワーク特別委員会、当委員会の計 3 委員会で連携を取り、日本の ECMO 体制向上のために役割分担して協働していく。

日本呼吸療法医学会 教育、レジストリー

日本集中治療医学会 医療保険、コスト改訂、病院間搬送

日本救急医学会 病院間搬送

従来、本会で施行していた教育、レジストリーなども今後は日本心肺補助学会などに移行する可能性が高い（まだ理事会や代表理事の承認は得ておらず、あくまでも現場での状況から）。実際に、2024 年には日本 ECMO net と厚生労働省による ECMO 講習会が開催され、2025 年も同様のシステムでの入札が開始されている。そのため、本会における ECMO プロジェクトの果たすべき方向性を協議する必要がある。

- ②ELSO や Euro ELSO、Asia-Pacific ELSO などの支部とも連携を図り、世界の潮流を意識しながらも我が国の存在感も示していく。

4) インフルエンザ重症例の全国調査

- ・ECMO の症例登録で使用してきた CRISIS を改良した new CRISIS を活用し、4 学会合同で行うことが検討された（日本救急医学会、日本集中治療医学会、日本呼吸療法医学会＋小児関連学会）。その結果、本会ならびに日本心肺補助学会の会員を対象に標記の調査を実施し、ホームページに調査結果を公開することとなった。本件は ECMO プロジェクト委員会と理事長とで対応した。

10. 利益相反委員会 （委員長 島田二郎／担当理事 清水敬樹）

- 1) 役員、利益相反委員、セミナー委員、編集委員等の COI の内容確認
- 2) 日本医学会 COI 管理ガイドラインを継続して注視

11. 社会保険委員会 （委員長 志馬伸朗／担当理事 平井豊博）

1) 内保連の加盟状況

- ・2018 年度より加盟し、志馬伸朗理事、平井豊博理事、近藤康博委員の 3 名を登録。
- ・診療領域別委員会（以下 4 委員会）

01. 検査関連 03. リハビリテーション関連 10. 呼吸器関連 20. 在宅医療関連

2) 令和 8 年度診療報酬改定提案 (2025 年 5 月最終提案)

【主提案】

「電気インピーダンス・トモグラフィ (EIT)」(大下慎一郎 先生)

- ・ ARDS 診療ガイドライン 2026 作成委員会からの提案案件。日本集中治療医学会との 2 学会で共同提案を行う。

【共同提案】

「CPAP 使用規定の改正、AHI 15 以上、簡易モニター 30 以上」

「CPAP 電話指導に対する加点」

- ・ 日本呼吸器学会からの打診を受け、上記 2 案を共同提案。

「人工呼吸器装着前意思決定支援料」

- ・ 日本内科学会からの打診を受け、上記案を共同提案。

「早期離床・リハビリテーション加算」

- ・ 日本集中治療医学会からの打診を受け、上記案を共同提案。

3) 委員会規則の変更

- ・ 理事会・委員会規則第 11 条 (1) では委員会委員の任期が定められているが、同時に同条文で「各委員会規則に別途規定がある場合を除く」とある。社会保険委員会は、診療報酬に関して意見を述べる非常に重要な委員会であり、継続性を必要とすることから、これまで本委員会規則にて規定を定めてきた。
- ・ 一方、組織・任期などにかかる記載が不十分であったため、このたび社会保険委員会規則第 2 条に対し以下の修正案が理事会で承認された。協力員の設置は終了となる。長年協力員としてお力添えいただいた先生方、ありがとうございました。

12. 倫理委員会 (委員長 則末泰博／担当理事 志馬伸朗・松本幸枝)

- ・ 第 47 回学術集会で日本集中治療医学会との合同シンポジウムを企画した。

『4 学会合同終末期ガイドラインを呼吸器領域でどう活用するか?』

「4 学会終末期ガイドラインの作成過程と内容の概略」(仮)

伊藤 香 (帝京大学医学部附属病院、集中治療医学会より)

「本ガイドラインで救急・集中治療領域のプラクティスはどうか?」(仮)

渥美 生弘 (聖隷浜松病院救命救急センター)

「本ガイドラインをナースの立場からどのように活かすか?」(仮)

辻本真由美 (横浜市立大学附属市民総合医療センター高度救命救急センター)

「呼吸療法医学会としての今後の活動の可能性」(仮)

則末 泰博 (東京ベイ・浦安市川医療センター、呼吸療法医学会より)

13. 学術研究推進委員会 (委員長 吉田健史／担当理事 倉橋清泰)

1) 学会承認研究

- ・「**集中治療と医療の質指標と VAE**（略称）」
統計解析を TXP メディカルに委託し解析。複数の論文が輩出されることを目標。
- ・「**A survey of when to intubate in hypoxemic respiratory failure**」 トロント大学
アンケートを、会員を対象にオンラインで実施（2023 年 10 月）。
侵襲的人工呼吸管理開始の決定に関わる医療従事者を対象。
挿管・人工呼吸管理開始の決定にかかわる種々の因子を定量評価する目的。
- ・「**ARDS 患者に対する ECMO 管理中の至適 PEEP の検討**」
大下慎一郎先生（広島大学大学院救急集中治療医学）のもと RCT として進行中。
- ・「**小児心臓血管外科術後患者における高流量式鼻カスラの効果**」
吉田健史委員長（大阪大学大学院麻酔集中治療医学）のもと進行中。
- ・「**COVID-19 患者における急性呼吸不全に対する非侵襲的呼吸管理デバイス（HFNCOT、CPAP、NPPV）の有効性と安全性の検討**」
近藤康博先生（公立陶生病院）のもと進行中。
- ・「**気管支喘息、COPD 増悪時の吸入療法の実態調査**」
奥田みゆき先生（大阪南医療センター呼吸器・アレルギー内科）のもと進行中。
日本集中治療医学会・日本呼吸器学会・本会の会員を対象にアンケートを実施。
（2023 年 10 月～11 月 20 日）。全国的にデータを収集し吸入療法の実態を把握。
英文での結果報告を作成中。転載許可が得られれば本会機関誌でも発表予定。
- ・「**Lung stress mapping を用いた ARDS（急性呼吸促迫症候群）患者における人工呼吸器関連肺傷害リスクの解明**」 多施設前向き観察研究
研究代表者：大阪大学大学院医学系研究科 麻酔集中治療医学教室 吉田健史
2024 年 7 月本会承認研究として認定、13 施設からの連絡があり順調に進行中

2) 学術研究の支援金

- ・これまで本委員会では学術研究の推進を目的とし、各種の臨床研究を学会として承認し大阪大学のデータ集積管理システム“REDCap”を利用できるよう取り計らってきた。一方、海外雑誌への投稿にともなう英文校正や投稿料などの費用支援については具体的に議論されていなかった。
- ・上記に加え、学術研究を支援する資金援助について「公募制、1 口 10 万円、年間予算 100 万円程度」とする案を理事会に上申し、学会の活動として相応しいこと、会員メリットとして入会の動機となること、公募制により公平性が担保されることなどから承認された。支援金の振り分けについてはメディカルスタッフにも支援が行き渡るよう審査の際に配慮する。

14. 広報委員会（委員長 高木俊介／担当理事 吉田健史 代：竹内理事長）

1) 2024 年度新設

- ・広報委員会の新設にともない、本会の広報上の課題としてホームページのリニューアル・ロゴ制作・タグラインコピーの作成に着手し、ロゴとタグライン・ボディコ

ピーは決定した。

2) ホームページリニューアル

- ・ホームページは学会の顔でありそのデザインは信頼性や安心感を高め、入会の動機に直結することが期待できる。学会として会員増に向けた施策に予算を割くことが重要であり、300～400 万円の予算規模で制作を進めることが承認された。2025 年 8 月の第 47 回学術集会にてお披露目できるよう広報委員会で制作を進めている。

※. 学術集会あり方検討委員会（竹内理事長）

- ・本委員会については、近年特段の業務が生じていないことを考慮し、将来計画・財務委員会に業務を引き継ぎ、解散することが理事会で承認された。

■Ad hoc 委員会

1. 用語集改訂委員会（委員長 大塚将秀）

1) 設置の経緯

- ・2009 年に作成した日本呼吸療法医学会用語集は、2016 年の改訂第 2 版発行以後、改訂の時期を迎えていた。Ad hoc 委員会として 2024 年度に委員会を設置し改訂第 3 版を制作した。委員には以下の会員が就任した。

委員長：大塚将秀（Dr）

委 員：梶原吉春（CE）、木村雅彦（PT）、小山有紀子（Dr）

中山龍一（Dr）、濱本実也（Ns）、山口嘉一（Dr）、横山俊樹（Dr）

2) 改訂第 3 版の完成ならびに公開

- ・2025 年 3 月にパブリックコメントを募集し、理事会承認を経て、2025 年 5 月 20 日付で改訂第 3 版をホームページ上に公開した。
- ・第 3 版については PDF 版に加えて、Web 上での用語検索システムを導入する。

3) 委員会の解散について

- ・Ad hoc 委員会として 2024 年度に委員会を設置し、改訂第 3 版を 2025 年 5 月 20 日に発行することができた。については、他の委員会委員の任期である社員総会の日にあわせ、6 月 14 日での本委員会の解散を、定款第 43 条にある委員会設置時の手続き同様、理事会にて承認された。
- ・第 3 版の公開から解散までは約 1 カ月があり、その間に会員等からの意見には委員会として対応し、解散後に対応が必要な案件が生じた場合は、この 1 年は担当した大塚理事が、その先は事務局担当理事が対応する。

2. BMI over 35（肥満患者）の呼吸管理（委員長 清水敬樹）

1) 設置の経緯

- ・清水理事より肥満患者の管理における診療報酬改定を目的とし、当該領域の現状やデータ収集などを行う委員会の新設の提案があり承認された。
- ・診療報酬改定を担当する社会保険委員会と連携し、Ad hoc 委員会として清水理事が

委員長となり、人選を行った。

3. 自発呼吸アセスメント指針改訂ワーキンググループ

(委員長 笹沼直樹 代：竹内理事長)

- ・2019年10月に「自発呼吸アセスメント指針」を公開し、成人における自発呼吸アセスメントにおける一定の知見が纏められた。同指針ではアセスメントを映像音声媒体で示すことや小児の自発呼吸アセスメントを含めることなどが課題となっている。これらの指針改訂作業を行うことを目的に「自発呼吸アセスメント改定ワーキンググループ」の立ち上げが承認された。

■3 学会合同

ARDS 診療ガイドライン 2026 作成統括委員会 (担当理事 竹内宗之)

1) 組織：日本集中治療医学会・日本呼吸器学会・日本呼吸療法医学会の3学会合同

委員長 大下慎一郎・則末泰博

副委員長 岡森 慧・安田英人・竹内宗之

委員_班長 中島幹男・阿南圭祐・片岡 惇・成田知大・三浦慎也

サポート班 真弓卓也(リーダー) 岸原悠貴・岡田遥平・山本良平・林健一郎(サブ)

オブザーバー 橋本 悟

担当理事 田坂定智(オブザーバー)・竹内宗之

2) 委員会開催(日本集中治療医学会事務局会議室+Web 会議)

- ・2024年度より継続的に2カ月に一度の頻度で委員会を開催。

3) 活動計画

- ・CQのシステマティック・レビューとメタ解析(～2025/5月)
- ・パブリックコメント募集(～2025/7月)
- ・ガイドライン本文(日本語・英語)執筆(～2026/2月)
- ・英語版作成(～2026/4月)
- ・2025年度の活動予算として論文投稿費、作業外部委託費、会議費、オンライン資料保管費、英文校正費、執筆料、謝金などで380万円程度の費用を計上。

【閉 会】

- ・竹内理事長の閉会宣言により締めくくられた。